

# 北の自然

北海道自然保護連合通信

No.74 2005.5.25



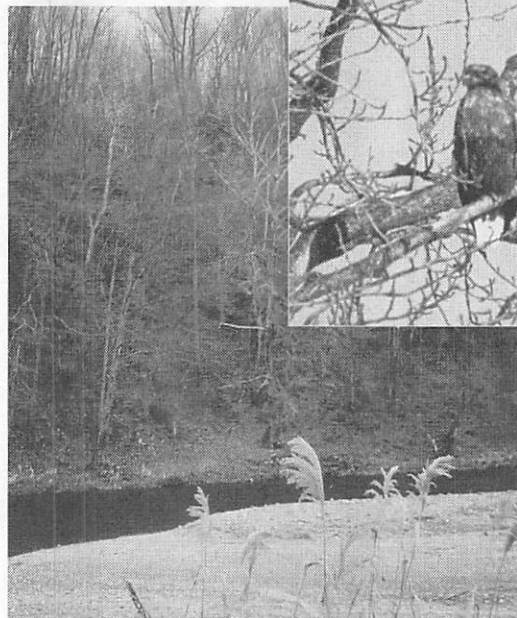
「一般国道39号北見バイパス(北見市～端野町)」

# 「北見バイパス」問題・現況報告

2005年4月現在

「北見の自然風土を考える」市民連絡会

事務局長 表 誠 司



オジロワシ営巣地の自然林相と常呂川



うじて生態系の円環を保持しています。

川沿いの崖淵のドロヤナギの高木には、オジロワシが2年連続して営巣し、昨秋は子育てに成功した模様です。内陸部でかつて市街地近郊(北見駅より2km)では、非常に稀有な実例とのこと。

北見最大級のミズナラは胸高周囲約5.5m、全道でも五指に入るのではと、樹木医の中内武五朗氏が指摘していました。また周囲3m以上のミズナラ等の巨樹巨木が、計画ルート圏内に多数存在します。

湧水の沢各所には、ニホンザリガニが生息しています。

平成13年5月縦覧の環境影響評価書では、以上の顕著な動植物の記載すら欠落しており、事後アセスということで、平成15年9月以降の調査も含めて、網走開建はその不備を繕おうとしています。

この一帯には、旧石器時代後期より縄文時代中期にかけての遺跡が連続して存在しますが、上記アセスには埋蔵物文化財については全く触れられていません。

## ◆計画予定地の地形、自然風土の相の概要

北見盆地の南側には、自然林の丘陵と湧水の沢が連なり、急斜面となって、常呂川河畔林エリアへと繋がっています。この一帯には、在来種の動植物が一揃い、ひっそりと生息し、かろ

# 図1 北見バイパス予定ルート図

平成15年8月 網走開発建設部より



## ◆「北見バイパス」工事計画の根本的誤りと、その経緯

まさにこの丘陵地帯の急斜面に、約10.3kmにわたってトンネル5本と橋梁8ヶ所を設けて、高規格道路を建設しようとするのが、この工事計画です。

予算は約400億円（1メートルあたり約400万円）。現在、バイパスとしての先行着工をもくろんで、網走開建は作業用道路に着手し、北見市が用地買収業務を受託しています。

平成15年9月より、当会は自然林湧水エリアの完全回避を求めて、ルート変更を強く働きかけてきましたが、北海道開発局・網走開発建設部は調整を全く拒否し続けています。

昨年2月、「身近な自然林エリアの開発中止をもとめる」当初署名が5,000筆を超えた段階で、そして昨年8月9日・10日に署名簿累計10,535筆を、北海道開発局（札幌）と国土交通省（東京）に再度にわたって提出しました。署名簿提出の際に、網走開建主催・人選による「北見道路整備における環境保全を考える」懇談会において、ルート変更問題を取り上げ、当会の提案を対策として客観的に公正に、比較検討されるように強く要望しました。

しかし、昨年8月19日に「第4回懇談会」に

て、当会の提案を発表することすら拒絶を続け、「オジロワシの営巣に影響なし、希少動植物も移植すれば問題なし」とする座長判断を根拠に、網走開建は、10月の作業用道路着工の事実上のゴーサインとしました。北見市長は委員のひとりです。

さて、学識者・専門家による見識とのことで、上記懇談会メンバーは全て網走開建の人選であり、「始めに工事ありき」の追認装置の疑いがあります。

以上の経緯のなか、7月・9月の(社)北海道自然保護協会の方々との現地調査を基に「一般国道39号北見バイパス（北見市～端野町）の中止を求める要望書」が当会と連名で作成されました。

昨年11月に国土交通省・北海道開発局と北見市長宛に提出されました。「環境影響評価書」や「懇談会資料（事後アセス）」の根本的な誤りの論拠を詳述し自然風土面と目的・必要性・効果等経済面からも「北見バイパス」計画自体の誤謬と欠陥を、客観的かつ具体的にA4版9ページをもって論証したものです。（内容骨子は別紙添付資料として）

今年1月15日、「北見バイパス」の根本的誤りを、広く市民に伝達し議論するために「第5回公開市民会議・北見バイパス本質を問う」を

北見市民会館にて開催しました。特別講演会として『身近な自然の価値と道路計画』と題し、北海学園大学教授：佐藤謙氏より、道路予定地を広く調査した結果を基に、道東の低標高地でかつ狭い標高範囲であるにもかかわらず、自生植物が約440種も見られることが非常に特殊であると、環境影響評価書を分析しながらの評価があり、北見市民そして北海道民としての郷土の自然風土財産としての価値を評価されました。

の、内容は全く回答となっていない一方的な通告です。今年度より本体工事に着手しようとする行政側の意向が見えます。

本年1月より、上記要望書に則った新たな署名活動を展開中です。一方、地元業界団体を中心とする着工推進派は「政・財・官」一体となり、約3万8千名の署名を集め、行政機関に早期本格着工を要求しています。

皆様には、この「北見バイパス」問題に対し



巨大ミズナラの木（胸高周囲 約5.5m）

続いて『生物多様性条約と道路問題』と題し、弁護士：市川守弘氏が、生態的持続性を判断する鍵として生物多様性が存在することを指摘され、巨額工事計画の北見バイパスは、結局、地域社会の発展にも地域経済にも役立たず、広く日本国民からの批難の対象となる道路工事計画であることが強調された。150名余名の参加があり、運動の輪が波紋を広めつつあります。

さて、「一般国道39号北見バイパス（北見市～端野町）の中止を求める要望書」に関しては、年度末ぎりぎりの3月31日の日付にて、北海道開発局側の事業経緯が書面にて送られてきたも

て、より一層のご理解とご支援をいただき署名活動に関し、格段の協力が頂ければ幸いです。

尚、署名用紙に関しては、下記問い合わせ先に連絡を頂ければ、郵送致します。

問い合わせ先

〒090-8691 北見郵便局私書箱21

Tel&Fax 0157-23-3220

（表 誠司方）

2004年11月4日

国土交通大臣 北側 一雄 様  
北海道開発局長 吉田 義一 様  
北見市長 神田 孝次 様

(社)北海道自然保護協会  
会長 佐藤 謙  
「北見の自然風土を考える」市民連絡会  
代表委員 大島 乙彦  
代表委員 佐藤 毅

## 「一般国道39号北見バイパス（北見市～端野町）」の中止を求める要望書

貴職、国土交通省と北海道開発局は、北見市街地の南部に「北見道路（一般国道39号北見バイパス）」を計画中ですが、当会は、この道路計画が自然保護の上から非常に大きな問題であると判断しております。それは、貴職による「環境影響評価書（平成13年）」や「北見道路整備における環境保全対策を考える懇談会」の公表資料に根本的な誤りが多々あり、貴重な自然を失わせてしまうからです。私たちの判断に至る論拠をここに詳述し、現在の計画路線の中止を強く求める次第です。

### 記

#### 要望書の骨子

- \* 自然保護の上から非常に大きな問題がある。
- \* 「環境影響評価書（H13）」や「北見道路整備における環境保全対策を考える懇談会」の公表資料に根本的な誤りが多々ある。
- \* 現在の計画路線の中止を強く求める。

#### 1. 道路予定地の自然は極めて貴重である。

##### (1) 動植物相が極めて多様で特殊

- \* 道路予定地に440種の自生植物・知床山系の同標高で200余種
- \* 特にオクヤマワラビは典型的な高山植物、かつ極めて希少な「氷河期の生き残り」
- \* 豊富な樹種・自然の姿を強く残した自然林
- \* 沢筋に多いトクサが稜線部まで多量に出現；地下に十分な水分が維持される機構
- ☆トンネル工法は自然保全にならない！
  - ・トンネルは、ストロー現象により地下水を大量に吸い寄せる。
  - ・地下水脈の変化、水位低下の実例あり→地表面の乾燥化、動植物相への悪影響が必定
- \* 動植物相・種類が多く、希少種が非常に多い（エゾモモンガ、オジロワシ、エゾサンショウウオ、ニホンザリガニ、オオイチモンジ、等々）
- ☆道路予定地は自然林に被われた斜面と自然河川が一体となって自然性が極めて豊か
  - ・生態系の食物連鎖の頂点である国指定天然記念物オジロワシが生息、営巣→生態系の健全な姿が、かろうじて保たれている
  - ・斜面直下の常呂川が自然河川の姿を示す；床固めや護岸工事がされていない→魚類に重要な湧水地点としての役割；河口域、海の漁業とも密接に関連

## 2. 「北見バイパス」の根本的な誤り

### (1) ルート選定の誤り

\*なぜ、もともと良好に残された自然をわざわざ通過するようなルートが選定されたのか  
→国交省が推進する「エコロード」では、自然性豊かな地域を避けるのが当然

### (2) 「オジロワシの営巣箇所は400メートル離れているから、工事で繁殖活動を阻害しない」(懇談会判断) → 本当なのか？

☆もし、オジロワシがいなくなったら場合、いったい誰が責任をとるのでしょうか。

### (3) 移植は保全生物学上大きな誤り；ニホンザリガニ、希少植物およびエゾモモンガを中心にして (\*生物学の基本原則は「生息域内保全」)

☆実例/ニホンザリガニ 置戸、砂防ダム工事、安全な場所へ子どもたちに移植させた(懇談会資料掲載) → その後の報道によると約9割がいなくなってしまった。

### (4) 景観の破壊に関して

\*市民共有の、ふるさとの自然景観が損失し、喪失する。

## 3. 本道路計画は目的・必要性・効果の上から大きな疑念が生じる

### ① 「バイパス」を必要とする程の「渋滞や混雑」が生じていない。

### ② なぜ「バイパス」にならない「バイパス」の先行着工を急ぐのか？

「北海道横断道路」の本体である足寄—北見間は新直轄方式による抜本的見直し区間  
いったい、いつ、つながるのか不明。バイパスさえ10年工期の予定。

つながらない「北見バイパス」は北見史上最悪の誤りであり、つながったとしても次世代に巨大な負債を強いる、無用の長物となる可能性が大いにあり。

\*銀河線の有効活用と比較検討(赤字2億円の場合、200年分)

### ③ 北見—札幌を結ぶ交通と物流

自動車専用道路、旭川—白滝—遠軽間が先行中、「北見バイパス」の本来的必要性と費用対効果にますます大きな疑問；事業目的・膨大な公共事業予算投下(400億)の正当化の根拠は何か？

## 4. 結論

\*貴重な自然を守るには、まずその地域を避けるのが最も肝要。

\*本道路計画は抜本的見直しが必要

説明が不透明で目的・必要性・効果に大きな疑念

\*北海道開発局網走開発建設部は以上論点に対して、科学的根拠を示さないまま、「北見バイパス」道路建設を拙速に着工しようとする動きが認められる。

\*道路予定地の自然は北見市民あるいは道民、国民の学校教育・社会教育の場として非常に大切；子孫に残すべき地元の貴重な財産。現在のまま着工されるのであれば、未来永劫、その価値を失ってしまう危険がある。

「真駒内・芸術の森 緑の回廊基金」は

# NPO法人になります

代表 小林保則

真駒内・芸術の森 緑の回廊基金が、ナショナルトラスト運動を進めるために、土地等をどういう形で所有するのかということを考えてとき、1998年12月に施行されたNPO法は私たちにとって、まさに渡りに船の印象でした。しかし、それから5年間法人格の取得に向けての作業は思うようには進みませんでした。

2004年は、会の活動の大半をNPO法人を取得するために費やしました。定款の作成から始まって設立総会の開催、設立認証申請、設立登記申請と作業を進め、12月8日付でようやく法人設立にこぎつけました。任意団体からNPO法人への変更は何を意味し、何をもたらすのか、2005年は不安と希望の交錯する中で始まりました。

会員のほとんどの方々は、任意団体からNPO法人への変更について暖かく応援していただき、今後も引き続き会員（現在60名）としてサポートしていただける事となり、さらには、関係団体からも暖かいご支援をいただいております。

私たちの守ろうとする地域の森は、私たちの家に隣接しながら、空沼岳や支笏湖の雄大な自然とも繋がり、そこに生きる動植物たちのまさに複雑な生態系そのものを私たちに見せてくれます。森が孤立してしまうとこれらの動植物は

生息できなくなります。私たちは森を回廊として残す為に民有林の買上等のナショナルトラスト運動をしていきます。

私は何の理屈も持たず、何の疑いもなく、今ある森や川の流れや草原や藪や湿地や昔からあるいろんなものは、そのまま残って欲しいと思うのです。そこには何かが生き、何かが生きていることは、それだけで私たちにとってかけがえのない存在であるはずで。確かにわたし自身も自然を壊し、人にとって便利な物が幸せをもたらす時代に生きてきたことも事実です。故郷を出て都会に働き、昔の畑が宅地へと変わったこの地に住み、便利さのまっただ中に生きています。しかし私たちは気づくべきです。こうして成し遂げた自然の破壊は、やがて生き物たちが数を失い、地球の温暖化による異常気象とその影響によって食料を失い、自然は今よりもっと過激に人を襲い、都会のシェルターに人を追い込む事になると思います。そのことを、南の島が海に沈むことや、ツンドラの氷が溶けて洪水になることや、熱帯地方の森が消えてオランウータンが絶滅することや、日本の何処かで干潟が毎日減っていることで知ることよりも、先ず自分の生活の中でこそ知るべきです。窓を開けて窓から見える森の木々に、子供たちと一緒に森に出かけ森に遊び森を知って自然の

大切さを考えるべきだと思います。

この地域にはそれでもまだ多くの森林が残っています。私有地の開発によっておきる森の消失が一番懸念していることですが、一方で公有林のあり方にも多くの疑問を持っています。私たちが今一番のフィールドとさせて貰っているのが、道の保健保安林（通称桜山）です。毎年4月29日には森の中と周辺道路沿いのゴミ拾いも行っています。この森は、地下鉄真駒内駅に隣接しながらも、クマガラや、フクロウの姿や、時には鹿なども見ることが出来、まさに多様な生き物の住かともなり、身近に自然を感じることの出来る大切な森だと思っています。しかし

一方でナナカマドの単種植樹の森などは、密生した状態で、森そのものの成長を阻害しているところもあります。またその他のところでも、成長の旺盛な木が少なく、森の荒廃を予感させます。こうした住居地に近い森では、もう少し手入れをしながら、身近な森としての姿を整える事も必要ではないかと考えます。森の荒廃は、手つかずの自然か、公園化された森かの二者択一を迫り、時にはその存在そのものが否定されかねません。子供達と一緒に森に入る、入りたいと思わせるような森であって欲しいと願います。



第7回緑の回廊講演会 2005年3月5日

## 緑の回廊基金からのお知らせ

基金は土地購入の原資となるもので、皆様からの寄付金等が基となります。

1口500円以上、何口でも。

会の活動経費については会員の年会費や応援カンパを充てています。

正会員 3,000円

サポート会員 1,500円

法人会員 10,000円

郵便振替口座：02770-5-42137

NPO法人真駒内・芸術の森緑の回廊基金事務局

〒005-8691 札幌南郵便局私書箱9号

TEL/FAX 011-582-1385

M Address [m05kairou@almond.ocn.ne.jp](mailto:m05kairou@almond.ocn.ne.jp)

WEB:<http://www.community.sapporocdc.jp/comsup/kairokikin/>



# 山岳における自然保護活動

## 北海道道央地区勤労者山岳連盟

自然保護委員会委員長 坂口利貞

道央地区労山では自然保護委員会が中心となって登山道の清掃、トイレの清掃、使用済みティッシュの回収、高山植物盗掘防止キャンペーン登山、そして日高セミナーとして日高横断道路建設反対運動等を通して山岳の自然を守る活動をしてきました。

毎年6月に実施する全国一斉クリーンハイクは全国連盟としては1974年から取り組み始めました。この運動はその後の自然保護運動の原点となっています。道央地区連盟は今年26回目を迎えます。活動当初は登山道のごみも空缶等かなり多かったと聞いておりますが、最近ではほんとうに少なくなりました。そこで23回目からそれまで主に札幌近郊を中心に活動してきましたのですが、もうすこし山域を広げて実施しようということになりました。それには今までと同じ全国一斉の6月の第一日曜日ではまだ雪の残っている山が有るだろうということで2週遅らせて第3日曜日にして活動を続けています。又昨年から会員の皆さんから、登った山でごみが多かったと思った山を寄せていただいて実施するようにしました。昨年は赤平のイルムケップ山がひどいという声が多く聞かれましたので、私の所属している百松山岳会の会員25名と一般参加の方2名で行きました。そしてそのごみの多いのにびっくりしました。行く前はどんなに多い

### ゴミ占領山 無意根山

## 大半が空きかん

勤労者山岳連盟が、清掃登山結果

### 軍手、くつ下もポイ

山岳は我が国が古くより、聖地として敬愛されてきた。その山岳は、自然の恵みを受け、人々の心を癒す場所である。しかし、近年は登山者の増加に伴って、山岳の自然環境が著しく破壊されている。ゴミの乱投、無断の採集、踏み荒らしなど、山岳の美観と生態系を脅かす行為が後を絶たない。本連盟は、山岳の自然環境を守るため、毎年6月に全国一斉の清掃登山を実施している。今年も、道央地区連盟として26回目を迎える。活動当初は登山道のごみも空缶等かなり多かったと聞いておりますが、最近ではほんとうに少なくなりました。そこで23回目からそれまで主に札幌近郊を中心に活動してきましたのですが、もうすこし山域を広げて実施しようということになりました。それには今までと同じ全国一斉の6月の第一日曜日ではまだ雪の残っている山が有るだろうということで2週遅らせて第3日曜日にして活動を続けています。又昨年から会員の皆さんから、登った山でごみが多かったと思った山を寄せていただいて実施するようにしました。昨年は赤平のイルムケップ山がひどいという声が多く聞かれましたので、私の所属している百松山岳会の会員25名と一般参加の方2名で行きました。そしてそのごみの多いのにびっくりしました。行く前はどんなに多い

ゴミの山だ。空きかん、軍手、くつ下、ポイ。山岳は自然の恵みを受け、人々の心を癒す場所である。しかし、近年は登山者の増加に伴って、山岳の自然環境が著しく破壊されている。ゴミの乱投、無断の採集、踏み荒らしなど、山岳の美観と生態系を脅かす行為が後を絶たない。本連盟は、山岳の自然環境を守るため、毎年6月に全国一斉の清掃登山を実施している。今年も、道央地区連盟として26回目を迎える。活動当初は登山道のごみも空缶等かなり多かったと聞いておりますが、最近ではほんとうに少なくなりました。そこで23回目からそれまで主に札幌近郊を中心に活動してきましたのですが、もうすこし山域を広げて実施しようということになりました。それには今までと同じ全国一斉の6月の第一日曜日ではまだ雪の残っている山が有るだろうということで2週遅らせて第3日曜日にして活動を続けています。又昨年から会員の皆さんから、登った山でごみが多かったと思った山を寄せていただいて実施するようにしました。昨年は赤平のイルムケップ山がひどいという声が多く聞かれましたので、私の所属している百松山岳会の会員25名と一般参加の方2名で行きました。そしてそのごみの多いのにびっくりしました。行く前はどんなに多い

1977年から近郊の山一斉清掃登山が始まった。北海道の山々は、登山口から頂上までゴミの山だった。

といっても何ヶ所かに別れてごみ捨て場のよう  
な状態なのだろうと思っていました。ところが  
行ってみると山頂まで車が入れるためだと思わ  
れますが、登山道の両側いたる所ごみの山でし  
た。それは明らかに山菜採りの人が捨てたごみ  
でした。不法投棄の大型ごみも有りました。こ  
うした傾向は北海道だけの傾向ではなく、全国  
クリーンハイクの集計報告を見ると、全国から  
そのような声が聞かれどの地方連盟も苦慮され  
ているようです。この問題を解決するために行政  
との連携等も含めて考えていかななくてはと思  
っています。

して活動している「北海道山のトイレを考える  
会」さわやかトイレデーとして全道の山で実施  
している日に協力しています。

日高セミナーは日高横断道路建設反対運動と  
して続けてきました。道路は新規の事業は行わ  
ないということで事実上中止となりました。しか  
し、労山が一番のスローガンに挙げていた日  
高の自然を守るという声が入られた訳ではあり  
ません。又大規模林道の問題もあり、これか  
ら日高の自然を見つめていかなければと考え  
勉強会と道路視察、そして登山をセットとした  
日高セミナーを続けていきたいと思ひます。

以上のような活動を労山会員皆ん  
なに理解していただいてこれからも  
続けて行きます。



2004年秋の清掃登山 美瑛富士小屋  
周辺・「山のトイレを考える会」さ  
わやかトイレデーに行く

高山植物盗掘防止キャンペーン登  
山は、これまで夕張岳、アポイ岳、  
大平山、雨竜沼湿原、そして昨年は  
赤岳と実施してきました。毎回1泊  
2日の計画で前夜は地元で活動され  
ている方をお迎えして学習会を開  
き、当日は高山植物保護の腕章を付  
けて登り、一般登山者にアピールす  
ると共に私達自身が自然の美しさ素  
晴らしさを新たに感じていま  
す。

トイレの清掃、使用済みテッシュ  
の回収は労山も会設立時から会員と



美瑛富士小屋周辺はトイレ紙がお花畑の様だった

# 森の道路を考える

第13回大規模林道問題全国ネットワークの集い・IN北海道

2005年6月25日(土)～26日(日)

## 6月25日(土) 森の道路を考える・集い

<集い> 会場 札幌市 かでる2・7 4F大会議室(札幌市中央区北2条西7丁目)  
開場 12:00 開会13:00 閉会17:00  
参加費 一般1,000円・学生500円(資料代含む)  
(申し込み不要・集会だけの参加も可)

記念講演…「日本の森と21世紀の課題」 佐藤謙一郎(民主党「次の内閣」ネクスト環境大臣)

基調講演…「生物多様性と大規模林道」 市川 守弘(環境法律家連盟理事)

基調報告…「大規模林道問題と最近の動向」 加藤 彰紀(大規模林道問題全国ネットワーク事務局長)

特別報告…「道有林・国有林と大規模林道」 依 浩三(専修大学北海道短期大学名誉教授)  
「植物中心に見た様似・えりも区間の自然」  
佐藤 謙(北海学園大学教授)

### 各地からの報告…

「朝日・小国区間の中止と今後の課題」 原 敬一(葉山の自然を守る会代表)

「細見谷の大規模林道と生物多様性」 金井塚 務(広島フィールドミュージアム代表)

## 6月26日(日) 現地見学会

大規模林道「平取・新冠区間」(門別町)

\*台風10号被災現場

\*全区間6.9km徒歩視察

交流会費 3,500円

宿舍出発7:30

現地出発13:30(千歳空港経由)

札幌到着16:00(札幌駅北口)

現地見学会の申し込み

6月10日まで 所定の申込み用紙で下記  
にFAXまたは郵送してください。

### 参加費

現地見学バス代 7,000円(札幌～現地)

宿泊費 5,250円(朝食付)

<申込み先>

株式会社 旅システム

TEL:011-742-2260 FAX:011-742-2265

主催:大規模林道問題北海道ネットワーク・大規模林道問題全国ネットワーク

連絡先:大規模林道問題北海道ネットワーク事務局

加藤彰紀 090-3065-5526 daikiborindo@docomo.ne.jp

市川利美 011-281-3348 fanclub@vmail.plala.or.jp

寺島一男 0166-65-1940 tera2112@potato.hokkai.net

北海道自然保護協会 011-251-5465 nchokkai@jade.dti.ne.jp

## 北海道自然保護連合2004年度会計報告

2005年当連合の代表者会議が4月17日に開催されました。代表者会議において承認された会計報告は次の通りです。

収入	前期繰越金	813,532
	団体加盟費	110,000
	賛助会費	186,000
	カンパ金	32,000
	広告料	60,000
	受取利息	106
	合計	1,201,638

支出	事務費	22,844
	会報印刷費	214,200
	会場費	6,935
	通信郵送費	57,070
	旅費交通費	72,740
	予備費	0
	合計	373,789

次期繰越金 1,201,638 - 373,789 = 827,849

## 北の自然 No.74

2005年5月25日発行

発行 北海道自然保護連合  
 事務局 札幌市南区川沿10条3丁目12-2  
 小山 健二様方  
 TEL・FAX 011-572-2069

発行人 寺島 一男  
 賛助会費 年間3,000円  
 郵便振替 02710-5-4071

印刷 (株)北海道機関紙印刷所

表紙写真 寺島 一男氏



(全日本登山とスキー用品専門店協会会員)

**登山とアウトドア専門店**

# 秀岳荘

(本店) 〒001-0012 札幌市北区北12条西3丁目  
 TEL011(726)1235  
 営業時間 AM10:00~PM7:00 ●月曜定休

(白石店) 〒003-0026 札幌市白石区本通1丁目南2  
 TEL011(860)1111  
 営業時間 AM10:30~PM7:30 ●水曜定休

(旭川店) 〒070-8045 旭川市忠和5条4丁目  
 TEL0166(61)1930  
 営業時間 AM10:00~PM7:00 ●月曜定休

<http://www.shugakuso.co.jp>